沖縄赤十字病院

日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

あなたの笑顔が
命をささえる。

看護師
募集案内

看護部理念

赤十字の博愛の心で「その人らしさ」を支える看護を提供します

信頼と満足の看護サービス

沖縄赤十字病院は、災害時に迅速な医療救護活動ができる態勢をとっている事が特徴です。
日常の医療活動においては、その人らしさを尊重し、思いやる心と専門的知識、技術をもって患者さんに寄り添う看護を目指して日々研鑽しています。
新人看護師の教育体制としては、プリセプター制を取り入れ、部署スタッフや教育委員会によるサポート、赤十字キャリア開発ラダーによる教育など、一人一人を大切に育成しています。

副院長兼看護部長　水田　厚子

プリセプターシップ

新人教育では、一年間のプリセプターシップ制になっています。新人1名にプリセプター1名がつき、指導ではなく一緒に学べることを心がけ、常に身近な存在として関わっています。また、プリセプターにサポートが付き支援するなど、スタッフ全体で新人教育に関わっています。

赤十字医療施設のキャリア開発ラダーとは？

沖縄赤十字病院で働く看護師一人ひとりの看護実践能力の向上を図るとともに、患者だけでなく看護職員にとっても魅力ある医療施設となるために、看護職員個々の自立性・主体性を育んでいけるよう、「キャリア開発ラダー」による人材育成を行っています。

レベルに合わせた研修内容

- レベルⅠの研修　次ページ新人看護師の一年を参照
- レベルⅡの研修
  1. 診療報酬と看護
  2. 看護倫理Ⅱ
  3. 看護と受容的態度
  4. プリセプター研修
  5. 災害看護Ⅱ
- レベルⅢの研修
  1. 実習指導
  2. リーダーシップとメンバーシップ
  3. 日本赤十字社救急法 救急員養成講習
  4. 後輩育成
  5. 看護倫理Ⅲ
  6. 傾聴と質問(コーチング)
- e-ラーニングによる研修の充実
  (著名な講師による最新の講義がビデオオンデマンドで受講できます)

病院理念

赤十字の博愛の心が伝わる病院をめざして

看護部基本方針

私達は患者さんの人権と意思を尊重し、患者中心の看護を行います
私達は自己研鑽・業務改善に努め、質の高い看護を目指します
私達は医療チームの一員として、地域医療に貢献します

看護部スローガン

患者さんを身内と思って、もてなしの心遣いで看護しよう
患者さんの気持ちや考えをよく確かめて、希望にかなった看護をしよう
患者さんの身になって、チーム医療の一員としての役割を果たそう

一人ひとりの人材を育てる

目的

1. 赤十字の理念に基づいた質の高い看護や医療を提供でき、また赤十字事業の推進者となる看護師の育成を図る。
2. 新人の時期から生涯にわたり継続的に自己研鑽を積むことができる研修支援体制も含めたしくみの導入により、看護師の能力開発の動機付けを促進し職務満足を向上する。

看護実践者ステップ

レベル5	病院単位で活動できる者	認定看護師 看護管理者 国際救援・開発協力要員
レベル4	看護部門単位で活動できる者	
レベル3	部署単位で活動できる者（リーダーシップ） 部署の教育担当者　臨床実習指導者 救護班登録者（国内救護）	
レベル2	自立して看護活動ができる者（部署内）	
レベル1	指導や助言を得ながら看護活動ができる者	

赤十字医療施設看護師

一年後、キャリアアップした自分と出会う。

看護師それぞれのキャリアデザインを支援する

新人看護師の一年

4月
- 新採用者オリエンテーション
- 基礎看護技術
- 経管栄養・胃ろう管理
- 内服・注射

5月
- 注射・採血演習
- 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い
- フィジカルアセスメント

6月
- リフレッシュ研修
- BLS研修
- 感染研修

7月
- 心電図
- 多重課題シミュレーション
- 看護過程・看護記録

8月
- レスピレーターの取り扱い
- 重症患者の看護

9月
- インスリン注射
- 輸血の取り扱い

10月

- 看取りの看護（VOD）
- 赤十字概論Ⅲ

11月

- 創傷・褥瘡ケア
- 災害看護論Ⅰ
- 吸引・排痰のケア（VOD）

12月

- 麻薬の取り扱い
- ナラティブ事例について
- 心電図モニター管理（VOD）

1月

- ドレーン・チューブ挿入中患者の管理とケア（VOD）
- レベル申請準備

2月

- 褥瘡の基礎知識と予防法（VOD）
- 同僚評価会実施

3月

- 高齢者の理解と転倒・転落防止（VOD）

ナースの声

質問内容

❶ 仕事で心掛けていること
❷ 仕事で大変なこと
❸ 仕事でやりがいを感じること
❹ 目指す看護師像
❺ 沖縄赤十字病院を選んで良かったこと

4西病棟勤務

❶患者さん・家族の声を聞いて看護を行い、日々の自分の行動の振り返りを行うことを心がけています。
❷3年目になり専科の疾患の看護には自信が持てるようになりましたが、ターミナルの患者さんや重症の患者さんを受け持つ際、患者さんや家族への精神面への看護は難しいと感じます。病棟ではチームリーダーを行うこともあり、これからどんどん責任のある仕事を行っていくことに不安や大変さを感じますが、スタッフのフォローが心強いので頑張りたいです。
❸「ありがとう」の言葉や笑顔が一番嬉しいです。患者さんの退院支援を行い、患者さん・家族が希望する在宅療養へつなげることができたときはやりがいを感じます。
❹患者さんやスタッフにとって頼りがいのある看護師。
❺先輩の指導が手厚いところや赤十字ならではの国際看護を学ぶことができるところがいい点だと思います。

5西病棟勤務

❶笑顔でいること。
根拠に基づいて行動すること。
❷患者様が安全・安楽に治療を行なうために看護師としての知識、技術を高める必要性を常に感じています。
根拠に基づいた看護を実践していくために県内外の学会や研修に参加し、日々自己研鑽に努めています。
❸退院困難な患者様の退院支援を行う中で多職種連携、協働し自宅退院へ繋げられたとき。
❹患者様や同僚から信頼され、それにこたえる事ができる看護師。
❺国際的な場面や災害の現場で実際に支援をおこなった先輩たちの体験談を聞くことができるため自分の看護師としての将来を考えることができる。

ICU／HCU勤務

❶忙しい業務の中で常に心がけていることは、患者様・ご家族の声を聴くことです。
❷ICU/HCUでは専科はなく、年齢・疾患を問わず様々な患者様が利用されます。看護展開をするなかで、患者様の安全・安楽を守るためには、幅広い知識・技術が必要であり、最初は自己研鑽が大変でした。
❸危機的状況にある患者様に対し、スタッフと日々ケアを行った結果、患者様が回復に向かい、笑顔が見られたとき。
❹相手の立場や価値観を踏まえ、患者様1人1人を尊重した関わりができる看護師になりたいと思います。
❺新卒で入職し、最初は不安と緊張でいっぱいでしたが、先輩方の手厚い指導もあり乗り越えることができました。他職種とも関係も良好で、働きやすい環境はもとより、スタッフの向上心が高く、災害看護や国際看護を学ぶ機会があることも良い点だと思います。

NICU勤務

❶「赤ちゃんと家族に優しい看護」を心掛けています。
❷赤ちゃんは言葉で訴えることができないので、赤ちゃんが発する小さいサインを見落とさないように常に気を配っていないといけないことや、治療や看護、観察などひとつひとつのケアがとても細かく慎重に行わなければならないことが多いこと。
❸赤ちゃんの状態が安定していくときや危険な状態にあった赤ちゃんが元気になり退院する姿を見たとき。家族の絆づくりに携われたと実感するとき。
❹患者さんや家族、医療チームから信頼されるような知識・技術を兼ね備え思いやりの気持ちを常にもった看護師。
❺小児科の先生がベテランの方々で落ち着いた対応で治療に臨んでいることと、定期的に勉強会を開催し共に成長していこうという風土があるところ。

館内のご案内

【東　棟】――病院棟――【西　棟】

7F	Tリハビリテーション科	栄養課
6F	血液内科（無菌治療室） 循環器内科・消化器内科 眼科・代謝内科 歯科口腔外科	緩和ケア
5F	消化器内科 外科・皮膚科	呼吸器内科・外科・泌尿器科 耳鼻咽喉科・脳神経外科
4F	産科・婦人科 SNICU／GCU	脳神経外科・小児科 整形外科 森川特別支援学校
3F	病理検査室／中央材料室／MEセンター／医局 O ICU／HCU　P 血液浄化センター Q 血管造影　R 手術部	
2F	医療社会事業部／薬剤部／用度課／病歴管理室 医療安全管理室 I 皮膚科／歯科口腔外科／泌尿器科（漢方外来） J 眼科／耳鼻咽喉科／麻酔科／緩和ケア外来 K 産科・婦人科（助産師外来）　L 健康管理センター M 内視鏡センター　N 生理機能検査	
1F	総合受付／医事課／経営企画・情報課／地域医療連携室 医療相談室／時間外薬局／ATM（沖縄銀行・琉球銀行） 患者図書室 A 整形外科　B 外科／脳神経外科／神経内科／小児科 C 内科　D 外科点滴センター　E 総合処置室 F 救急センター　G 放射線科　H ライナック	

複合管理棟

日本赤十字社
沖縄県支部事務局

沖縄赤十字病院 管理部門
事務部
（総務課・会計課・施設課）
看護部

会議室１（支部講習室）
会議室２
会議室３

カフェレストラン エムず
月～金　8:30～18:00
土曜日 11:00～15:00

連絡通路

災害救援用物資倉庫

FamilyMart
毎日7:00~23:00

赤十字ラウンジ

ゆいけあ（緩和ケア病棟）の紹介

理　念

赤十字の博愛の心で
「大切な時間をその人らしく過ごすために」を支援します。

「ゆいけあ」とは、

沖縄の相互扶助の心「ゆいまーる」とつらさを手当するケアが出会い、「その人らしさ」を大切に体や心のつらさを和らげ、患者、家族が望む場所で過ごせるように支援したいという私たちの思いを込めました。

緩和ケアとは

がんによって生じる痛み、吐き気、呼吸困難などのつらい症状はもちろん、悩みや不安などを和らげ、その人らしい生活を送ることができるように、患者さんを中心に、ご家族、医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士、理学療法士、往診医、訪問看護師などがチームを組んで行うケアです。

当院が目指す緩和ケア病棟

これまでは、
『入院したら看取るまで。』

→ QOLの向上

これからは、その人らしく
『より良く生きる』
を支援する病棟へ

地域の訪問看護ステーション、在宅支援診療所等との
連携を強化し、終末期であっても
「ときどき入院ほぼ在宅」を支援していく。
大切な時間を、その人らしく過ごせる場所で

認定看護師

金城　恵

又吉 綾乃

中村 利香

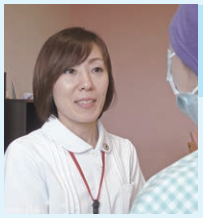
緩和ケア認定看護師

死を見つめ、ともに悩み考える

みなさんは「緩和ケア」についてどういうイメージをお持ちでしょうか？

「がん」や「終末期」、また「痛み」「死」といったような、ネガティブなイメージを持っている方も少なくないかもしれません。しかし、患者・家族の痛み（つらさ）を手当てするという緩和ケアの行為は、看護の最も基盤となるものだと感じています。また私たち緩和ケア認定看護師は、看護学生、新人看護師、中堅看護師、リーダ看護師それぞれにできるケアをともに考え実践に移せるように支援しています。

臨床の現場で、患者・家族の看護をともに取り組んでいきましょう！



辻　佐弥香

がん性疼痛看護認定看護師

患者さんのQOL改善を目指して活動しています

がん性疼痛看護認定看護師の役割は、痛みを有するがん患者さんの病態を総合的に評価し、痛みを軽減する看護ケアや医療用麻薬など薬剤の使用を主治医・患者さんとともに考えていくことです。患者さんにとって一番身近にいる私たち看護師は、患者さんの変化にいち早く気付ける立場にあります。そんな私たち看護師が痛みの知識を持つことは、患者さんの痛みを軽減させる近道になります。ぜひ一緒に疼痛緩和を学び、患者さんのQOL向上を目指しましょう!!

久手堅　みゆき

皮膚・排泄ケア認定看護師

エビデンスに基づいた局所ケアの実践・教育を

皮膚・排泄ケア認定看護師とは――褥瘡（床ずれ）などの創傷（きず）、ストーマ（人工肛門・膀胱）、失禁（便や尿もれ）などのある患者さまに専門的な知識や技術を用いてケアを行っております。褥瘡委員会の一員として院内褥瘡回診を毎週行い、スタッフに対し予防の援助やエビデンスに基づいた局所ケアの実践・教育をしています。

認定看護師として学んできた専門知識と看護技術を用いて実践すると共に患者さまのQOLの向上、看護の質の向上、自己の専門的なアセスメント能力の向上を図れるように努めています。

與那覇　美奈子

臼井　聖子

感染管理認定看護師

患者さんに安全な医療を提供できるように

病院には疾患や治療の影響で免疫力の低下した患者や、医療器具が挿入され感染のリスクのある患者が入院しています。医師や看護師だけでなく、病院で働く全職員が正しい知識のもと感染対策を実施していくことが重要となります。

感染管理認定看護師は、院内の患者、家族、職員、訪問者を感染から守る役割を担う看護師で、具体的には感染対策の教育を徹底し感染予防策に努め、感染症を発症した患者が入院した場合には感染が拡大しないよう現場のスタッフとともに対策に取り組んでいきます。また、感染制御チーム（ICT：Infection Control Team）の一員としてチーム活動を行うことも重要な役割の一つです。患者さんと直接的に関わることは少ないですが、現場の看護師の皆さんを通して患者さんに安全な医療を提供できるように取り組んでいます。一緒に頑張っていきましょう。

土屋　一子

救急看護認定看護師

問題の優先順位を判断し、適切な初期対応を実践します

救急外来を受診される方は、突然の事故や急性発症、慢性疾患の急性増悪など様々です。救急看護は、病態に応じた問題の優先順位を判断し適切な初期対応を実践します。また、救急医療を必要とする患者様・ご家族の心理・社会的状況をアセスメントして支援することも求められます。救急認定看護師として自己研鑽に努め、チーム医療の充実を図り、看護の質向上と安全な医療の提供を心掛けています。

新城　圭一

慢性呼吸器疾患認定看護師

質の高い看護を目指して

慢性呼吸器疾患認定看護は、安定期、増悪期、終末期における慢性呼吸器疾患患者とその家族のQOL向上に向けて支援します。また、酸素療法、人工呼吸管理、呼吸リハビリテーションなど包括的呼吸ケアの実践に努め、質の高い看護を目指していきます。

現在所属しているICU/HCUでは、VAP予防、誤嚥性肺炎予防に向けた口腔ケアの方法の見直し、統一に向けた活動を行っています。今後は、当院のOAG（オーラルアセスメントガイド）の作成とケア統一に向け歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士と協働で活動していきたいと思います。

与那覇　愛

新生児集中ケア認定看護師

命を育む医療と看護で児と家族のスタートを支えます

新生児集中治療室（NICU）と聞くと救命救急的医療に関心が集まり不安を抱えるご家族が多いかと思います。当院NICUでは医療的ケアが必要なすべての児とそのご家族へ支援していくにあたり、アットホームな雰囲気作りを心掛け、安心してお子様との関係を築けるよう看護しています。

新生児は言葉は話せなくとも多くのサインを常に出しています。そのサインを正確に読み取り、児とそのご家族が中心となるようケアの提供に取り組んでいます。

ひとつでも多くの笑顔が引き出せるようご家族に寄り添いながら個別的ケアを目指しています。

チーム活動紹介

NST（栄養サポートチーム）委員会

肥満ランキング一位の沖縄県がある一方で、医療現場の中では低栄養状態の患者様が意外にも大勢いるという現実に驚かされます。

栄養不良状態が続くと、活気低下、体重減少を招くことがあります。寝たきりで低栄養状態が続くと、褥瘡(床ずれ)を起こしやすく、治癒が遅れる原因となります。高齢になるほど食事摂取低下を招きやすく体調不良に繋がりやすいという問題もあります。

NST(栄養サポートチーム)は、医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、栄養士、言語聴覚士など様々な職種が集まって栄養に関する種々の問題を検討し、栄養状態の改善をお手伝いするチームです。週1回のNST回診にて栄養評価・計画を行っており、週に30名ほどの患者様の回診を行っております。

適切な栄養管理を行う事で病気の早期回復、予後の改善が期待されると、県内でもNSTのチーム医療を行っている事が当たり前の風潮になってきています。医療の質、患者様のQOLが向上する事を目指し日々の業務に取り組んでおります。

摂食・嚥下口腔ケアチーム

当院では、平成27年より多職種（歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、慢性呼吸器疾患認定看護師、リンクナース）による摂食・嚥下口腔ケアチームを立ち上げ活動を行っています。

チーム活動として、入院時口腔内アセスメントシート評価をもとに、歯科衛生士・慢性呼吸器疾患認定看護師による病棟回診を実施し、病棟看護師に治療・処置におけるアドバイス・口腔ケア方法の指導を行っています。

口腔ケアにより口腔内の細菌を出来るだけ減らすことは、口腔内環境の改善、口腔機能維持・向上、誤嚥性肺炎予防、周術期患者さんの合併症予防にも有用で患者さんの早期回復、QOL向上に重要なケアの一つと言えます。

言語聴覚士による機能訓練、歯科衛生士による専門的口腔ケア、病棟看護師による日常的口腔ケア、歯科衛生士によるオーラルマネージメントにより専門的治療・処置を必要とする場合は歯科医師に繋ぐなど、多職種連携・協働を図り患者さんを中心とした安心・安全で質の高い医療の提供を目指しています。

緩和ケア委員会

当院には、がんと向き合う患者・家族・地域医療スタッフを支える緩和ケアチームがあります。

緩和ケアとは、がんによる心と身体のつらさを和らげ、患者・家族が、自分らしい生活を送れるようにすることです。緩和ケアは、個人や一医療機関で取り組めるものではなく、患者・家族をサポートする医療スタッフが協働してはじめてできるケアだと考えています。当院のチームの特徴として、患者・家族のケアはもちろんですが、地域医療スタッフへのケアと協働を目指し、定期的な勉強会や協力した訪問看護、ケア方法に関する電話相談などの取り組みを始めています。

患者・家族、地域医療スタッフ、それぞれのその人らしさを支えるケアを、ともに考え、実践していきたいと考えています。

ICT（感染制御チーム）

感染制御チーム（ICT：Infection Control Team）は、院内感染対策の実践的な活動を担うチームとして平成24年2月に設立されました。現在、感染管理担当医師・感染管理認定看護師・感染制御認定微生物検査技師・薬剤師・事務などの感染対策の専門的な知識を有する職種が集まり、週1回の院内ラウンドを行っています。ラウンドの中で感染対策の実施状況の確認や指導等を行いながら、院内感染の発生、拡大防止に努めています。

院内感染は自院だけの問題ではなく、地域で連携する施設とともに取り組むことが重要であり、地域内でのネットワークを構築し、感染対策に取り組んでいます。

災害救護活動　赤十字の大きな使命　それは、災害救護です

災害救護は迅速かつ的確な行動が求められます。そこで、日本赤十字社沖縄県支部で開催される各救急法等を学び、もしもの災害時には、赤十字救護班要員として救護活動を展開できる職員を養成します。これまで、実際に県内、県外と様々な災害に医療救護班、こころのケア班を派遣してきました。

救護活動が実践できる看護師を育成

傷病者集積所（トリアージポスト）での一次トリアージ/重症（赤エリア）での救護活動

日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

東日本大震災において

東日本大震災では、日本赤十字社沖縄県支部・沖縄赤十字病院からも58名のスタッフを被災地に派遣し、医療救護活動、こころのケア、看護業務支援を行い、迅速かつ的確に日頃から培ったスキルを十分に発揮し、震災直後の混乱した環境でも赤十字職員としての任務を遂行しました。

日本赤十字社　赤十字マークは安心のマークです

【主な災害救護活動】

平成 7年	1月	阪神・淡路大震災へ救護要員を派遣
平成16年	8月	沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事故へ医療救護班を派遣
平成16年	11月	新潟中越沖地震へ医療救護班、こころのケア班派遣
平成17年	6月	小谷園土砂災害(南城市)へ医療救護班派遣
平成18年	6月	中城村、那覇市、土砂災害の避難住民へこころのケア班派遣
平成19年	8月	那覇空港中華航空機炎上事故へ医療救護班派遣
平成21年	8月	ガーブ川鉄砲水事故へ医療救護班派遣
平成23年	3月	東日本大震災　宮城県石巻市へ医療救護班6個班派遣
	～8月	こころのケア班4個班、看護業務支援派遣、ER看護師派遣
平成28年	4月	熊本地震へ救護要員を派遣

国際救援活動 想像力と理解力の大切さ

看護部　看護師長
高尾　実千代

アフガニスタン難民救援（1993年）、スーダン紛争犠牲者救援事業（2004年）に参加し、赤十字国際委員会（ICRC）の戦傷外科病院で病棟看護師として各国のスタッフとともに負傷者を手当し、病棟管理と現地スタッフ教育を行いました。

海外赤十字社救急法など講習普及支援事業（2007年）ではパラオ共和国で救急法指導員として講習普及に努めました。紛争による難民・避難民と関わる中で平和の尊さと、人は生まれてくる時も場所も選べないということを痛感し、そしてどこにいても想像力と理解力を持って活動する事の大切さを実感しました。

■主な国際活動／

平成 6年	アフガニスタン難民救護事業へ派遣
平成16年 7月	ケニアロピディン戦傷外科病院へ派遣
平成24年10月	イエメン紛争犠牲者救援事業へ派遣
平成27年11月	南スーダン共和国ICRC支援病院へ派遣
平成29年 8月	南スーダン共和国ICRC支援病院へ派遣
令和元年12月	南スーダン共和国ICRC支援病院へ派遣

■救急法等講習普及支援事業／

平成19年 2月	パラオ赤十字社へ派遣

救急法などの講習

健康で安全な生活を送るとともに、ボランティア活動などにも役立つ知識や技術を身に付けるため講習会を実施しています。

救急法

日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を学ぶ。

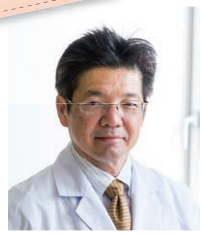
健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために必要な、健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術を学ぶ。

災害時高齢者生活支援講習

災害で避難所生活を余儀なくされた高齢者の支援方法を学ぶ。

Message



看護の仕事を選んだみなさんへ！

院長　大嶺 靖

わたしたちは「赤十字の博愛の心が伝わる病院をめざして」の理念のもとに患者中心の医療を実践します。日本赤十字社の一員として沖縄県内、国内、海外へ災害救護チームを派遣した実績があり、今後も継続していきます。
来たれ！　意欲ある未来の看護師たち。

病院概要

- 名　称／沖縄赤十字病院
- 開　院／昭和27年
  アメリカ統治下時代に沖縄赤十字病院の前身「厚生協会診療所」として設立
  昭和34年　沖縄赤十字病院と改称
- 病院長／大嶺　靖
- 病床数／302床（緩和ケア病床含む）
- 職員数／622名（実稼働人数）

（令和２年２月現在）

- 主な機能
  - 地域医療支援病院
  - 地域災害拠点病院
  - 地域周産期母子医療センター
  - 二次救急告示病院
  - 日本医療機能評価機構認定（3rdG.Ver2.0）

診療科目

○内科	○循環器内科	○消化器内科
○呼吸器内科	○血液内科	○小児科
○消化器外科	○呼吸器外科	○乳腺外科
○外科	○整形外科	○眼科
○脳神経外科	○脳神経内科	○産婦人科
○耳鼻咽喉科	○皮膚科	○泌尿器科
○麻酔科	○リハビリテーション科	
○歯科	○歯科口腔外科	○病理診断科
○放射線科	○精神科	○内分泌内科
○代謝内科	以上27科	

沖縄赤十字病院

日本赤十字社

〒902-8588 沖縄県那覇市与儀1丁目3番1号
TEL: 098-853-3134　FAX:098-853-7811　http://www.okinawa-med.jrc.or.jp